



小学校高学年から中学生まで歯列矯正治療を受けていたので、歯科衛生士はとても身近な存在だったという森下さん。「歯科衛生士さんに会いたくてクリニックに通っていたほど。そのときの憧れから大学に入学しましたが、実際に歯科衛生士の勉強をして、やさしく患者さんに接するだけでなく、幅広い知識と技術が必要な仕事なのだと知りました」と語る。

森下琴以さん

歯学部口腔保健学科口腔保健衛生学専攻4年

「大きく口を開けて、思いきりペロを前に出してみよう。恥ずかしがらずに、はい、ペー」

集まったお年寄りや子どもたちを前に、誰よりも大きな口を開けて舌を出してみせるのは、歯学部口腔保健学科口腔保健衛生学専攻4年の森下琴以さん。応用実習の一環として地域の食育イベントや老人介護施設などに赴き、白田千代子先生が考案した口腔機能を向上させる『健口体操』を指導するボランティア活動に参加している。

「歌いながら顔や舌を動かして唾液分泌を促す顔面体操などを通して、噛むことの大切さを伝えていきます。この活動に初めて参加したのは3年次のときでしたが、歯科クリニックに勤務する以外にも、歯科衛生士として社会や地域に貢献することができたのだと知り、とても勇気がわいてきました」

こうした活動を通じて口腔機能改善につなげてほしいのはもちろん、「楽しんでもらえればうれしい」と森下さんは話す。

「このボランティアに参加するようになってから、大学の授業でも口腔機能に特化した授業への興味が増しました。『顎口腔機能の育成と回復』という科目では、成

長過程にある子どもの口腔機能から高齢者の口腔ケアまで網羅していて、とても勉強になります」

医学部附属病院の病棟実習では、看護師の業務を理解するとともに、教員が行う患者さんの口腔ケアを見学し実習をすることで、チームで仕事をする意味と歯科衛生士として大切なことをたくさん学んだ。中には精神的に不安定で対応が難しい患者さんもいたが、口腔内がきれいになると落ち着き、「また来てほしい」と言ってくれた。

「ある終末期の患者さんは、それまでずっと口が開かなかったのに、口腔ケアをした翌日から大きな口を開けてあくびをするようになりました。そのとき、私の気のせいかもしれないのですが『ありがたい』と言われた気がします。この仕事は患者さんの癒やしにつながるのだと気付きました」

これらの実習経験から、周術期口腔ケアなどにも携わる総合病院勤務を希望。春からは東京医科歯科大学歯学部附属病院で働くことが決まった。「患者さんと周囲の医療スタッフに信頼される歯科衛生士になりたい」と、新生活を目前に、期待に胸を膨らませている。

口腔ケアを通して 癒やしも与えるような 歯科衛生士になりたい



ボランティア活動では、健口体操のほか、咀嚼判定ガムを使って参加者に自分の噛む力を知ってもらおう。「はじめは不安でしたが、『上手にできてますよ』などと声をかけると参加者も喜んでくれます」と話す森下さん。ボランティア活動は、社会人になってからも続けたいという。